



六字城

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院
大阪市北区東天満一丁目八二六

電話 六三五一一三五三五
代表者 輪番 長谷山法雄

新年のご挨拶

真宗大谷派天満別院輪番
長谷山 法雄

明けましておめでとうございます。
皆様にはすこやかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、二〇二三年にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」へ向けて、これまでの課題を受け止め、当別院が念仏道場の拠点になりうる教化態勢の抜本的見直しと教化態勢についての具体的な検討・協議が「天満別院教化委員会」で鋭意行われてきました。いよいよ当別院の歩むべき方向を示す今年度の教化

一月の法座・行事

- 一〜三日・修正会 (午前八時)
- 四日・如信上人御祥月御命日 (午前八時)
- 八日・同朋の会例会 (午後一時半)
- 十二日・闍如上人御逮夜・常永代経 (午後二時)
- 十三日・闍如上人御命日 (午前八時)
- 十五日・嚴如上人御祥月御命日
- 十九日・覚如上人御祥月御命日
- 二十四日・正信偈書写の会 (午前十時)
- ・定例法話
大阪教区第十二組
専立寺 住職 松尾 智仁 師 (午後一時半)
- 二十五日・法然上人御祥月御命日
- 二十七日・宗祖聖人御逮夜 (午後二時)
- 二十八日・宗祖聖人御命日 (午前八時)

本年もよろしく お願い申し上げます

- | | |
|-----|-------|
| 列座 | 山元 教悟 |
| 列座 | 出原 大乗 |
| 列座 | 堀河 実誓 |
| 書記 | 小坂 昌子 |
| 非常勤 | 山名 彰英 |
| 事務員 | 矢裂 隆司 |
| 事務員 | 林 錦芳 |

霊園・墓石

株式会社太田石材店

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18号
TEL 06-6930-5075 0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

無明の闇を
破するゆえ
智慧光仏と
なづけたり
(法語カレンダーより)

事業計画が「法要部会」「広報部会」「研修部会」で策定され遂行される大事な年となります。皆様方の積極的なご協力とご指導をいただきながら、念仏道場の拠点としての歩みだしをしたいと思っております。
本年も宜しくお願いいたします。

新年のご挨拶

天満別院責任役員
奥林 暁

昨年十一月二十日、二十一日の一昼夜にわたり、御正忌報恩講に先立ち真宗本廟両堂等御修復奉告

法要が勤められました。

この御修復事業は宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の特別事業として、二〇〇三年から足掛け十三年間にわたって、あらためて宗祖親鸞聖人に出遇う御仏事として取り組まれてきました。私たちが崇敬する天満別院に於いても二〇一五年宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が勤められました。真宗本廟、天満別院、このかけがえのない念仏の道場を相続し、帰依三宝の生活にいそしみ、そのころを次の世代へと伝える、手渡していかなければならないという誓いを、新年にあたり改めて自ら確かめていきたいものです。

謹賀新年 責任役員

院議会議員

奥林 暁	榎屋 義雄	谷 康司	広澤 信彦	澤田 見	松井 聰	松尾 直哉	宮部 渡	宇野 善昭	八十島義郎	幸田 晴夫	井上 信夫	小糸 正洋	藤本 裕正	西松 薫
------	-------	------	-------	------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

監事

◆正信偈書写の会より

毎月二十四日午前十時より一階会議室にて正信偈書写の会を行っております。書写用紙は別院で用意してありますので筆、墨、硯は各自で用意ください。

◆仏前結婚式について

別院では仏前結婚式を随時受け付けております。寺院関係の人達ばかりでなく、ご門徒の方々の挙式もご遠慮なくお申込みください。



◆職員移動について

左記の通り職員移動についてお知らせいたします。

記

新任 (十月一日付)
列座見習い 堀河 実誓 以上

ご挨拶

天満別院列座見習いの堀河実誓(じつせい)と申します。この度ご縁を頂き、九月上旬に天満別院に来ました。出身は大阪で、今は二十五歳です。大谷大学を卒業してからは、松屋フーズに就職し、東京で勤務しておりました。そこでは初めての一人暮らしに始まり、本当に様々な経験をしました。天満別院とは全く違う業種ではありますが、この経験が今後役立つ場面があればと思っております。天満別院での目標は今日より明日と自身で成長を実感出来るよう努力すること、また天満別院に来た時の初心を忘れないことを心掛けております。不束者ですが、皆様これから宜しくお願い致します。

平成二十九年度 年回表

年 回	年回にあたる没年
一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
(二十三回忌)	平成七年
二十五回忌	平成五年
(二十七回忌)	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
(三十七回忌)	昭和五十六年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

※二十三、二十七、三十七回忌につきましては、地域によってはお勤めされない場合もございます。
※年忌法要をお勤めになる際は、少し早めにご連絡いただきますようお願いいたします。ご相談等も寺務所までご連絡ください。

ても、それぞれの子どもがかかけえのない一人子です。阿弥陀さまにとつて、私たち一人一人がかかけえのない一人子と見てくださるのです。

この阿弥陀さまの大悲のお心の境地、つまり一子地が仏性であるご和讃にあります。仏性とは仏としての性質であり、私たちにはこの仏性が種として備わっているということが『涅槃経』に述べられています。そして、その種が花として開花する場所が、阿弥陀さまのお浄土なのです。そのことが最後の句の「安養にいたりてさとりるべし」にみてとれるのです。

お知らせ

◆修正会法要

一月一日～三日 午前八時より

法要終了後、輪番の年頭挨拶と法話がございます。ご家族揃って初参りに別院へお参りください。

◆墓地の門の

開閉時間について

一月一日～三日まで

午前六時半より午後五時までとなっております。お墓参りは開門時間内にお願いたします。お車でお越しの方は、道路上は駐車違反となりますので、別院講堂前、または南側別院境内にご駐車いただきますようお願いいたします。

◆新年互礼会について

一月二十九日(日)

時間 午後六時より
場所 芝苑にて
会費 壹萬弍仟圓也

例年のごとく僧俗懇親の互礼会といたします。皆様多数のご参加をお待ちしております。

◆定例法話

一月二十四日(火)
午後一時三十分より

法話 大阪教区第十二組
専立寺住職
松尾 智仁 師

法話終了後例年の如く門徒会婦人部の方々が前日より準備された鏡餅による接待があります。是非お誘い合わせ御参拝ください。

あらためて「一人がため」の念仏を

天満別院院議会議員
宮部 渡

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年をふり返り印象に残っておりますのは、「寺院存続の危機」や、「お坊さん宅配便」等が盛んにニュースにとり上げられたことでした。真宗を含む既成仏教の今までのあり方と、時代社会の歪みが一気に表面に噴出した年であった気がいたします。それは釈尊が「劫濁(こうじよく)」とあらわされたとおおり、人間が繰り返してきた歴史でもあるのです。

門徒会

顧問	北川 正澄
会長	宇野 善昭
副会長	榊屋 義雄
副会長	井上 信夫
副会長	傍島 恭子
会計	八十島義郎
会計監査	西松 薫
会計監査	幸田真須美

別院婦人部

部長	幸田真須美
副部長	傍島 恭子
副部長	林 綾子
副部長	佐藤 紘子
会計	村中 怜子
会計	根本 和子

墓地委員会

委員長	佐藤太一郎
	八十島義郎
	谷 康司
	幸田 晴夫
	根本 卓

単に時代を嘆いたり、自分たちの組織温存、保身を優先に他者を批判し、排除しようとするのみならば到底解決できない問題に今、直面しているのです。他者ではなく、濁世を生み出している私の問題にはかならないのではないのでしょうか。年頭に当たって、あらためて宗祖が弥陀の誓願を「親鸞一人がためなり」といただかれた願いに還らなければいけないの思いを新たにしましたことです。

天満別院では、そんな課題を背負う中、教化委員会発足に向けてのプロジェクトがスタートしました。皆様のお知恵を拝借したく存じます。

本年もよろしくお願い申しあげます。

新年のご挨拶

天満別院門徒会 会長

宇野 善昭

明けましておめでとうございます。別院ご門徒の皆様にはお健やかに新たなお年をお迎えになられましたことと存じます。昨年も皆様方には別院門徒会の為、沢山のご協力をいただきありがとうございます。本年も輪番さん、別院職員の方々と共に頑張りたいと思います。どうかよろしく願います。

別院にお参りすれば同朋の方がいらしゃる、いつも楽しくお話が出来ると思っていただけるようになればいいと思っで進んでいききたいと思っます。

今年もご門徒の皆様方にとって良き一年でありますように念じます。

合掌

新春おめでとうございます

天満別院門徒会 婦人部

高田 美恵

昨年門徒会から真宗本廟両堂等御修復完了奉告法要に参加、オープニング加賀献木木遣り行列を見物し、大人も子供も大木を声を出して引張っで楽しそうでした。今私達在本山にお参り出来るのは先人達の御苦労のおかげと感謝し、法話(仏様のおことば)を聞いて悔いのない人生を送りたいです。

合掌

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役
宣心院 大谷 暢文

『諸経讃(六)』

平等心をうるるときを

一子地となづけたり

一子地は仏性なり

安養にいたりてさとるべし

(平等の真理を悟ることによってできる心を得たときを一子地と名づけるのであります。一子地は仏性であり、安養界であるお浄土に至って悟るのです。)

前回の「和讃と同様に、このご

和讃も『涅槃経』によって詠われました。その『涅槃経』で引用された箇所を記してみます。「仏性は一子地となづく。何をもつてのゆへに、一子地の因縁をもつてのゆへに、菩薩はすなわち一切衆生において平等心をえたり。一切衆生はついにさだめてまさに一子地をうべきがゆへに、このゆへにときて一切衆生悉有仏性といふなり。一子地はすなわちこれ仏性なり。仏性すなはちこれ如来なり。」

この箇所をもつて、親鸞聖人は、一切の衆生の平等に憐れむ心が生ずる境地が、お浄土において得る利益であるご和讃に詠われたのです。

一句目に「平等心をうるるときを」

を送りたいです。

御影堂では一番前に座っていると福岡、大分から二泊三日で参拝に来られすごく喜んで感動されていました。私も十一月に江差、函館、帯広別院に参拝し、御門徒方が朝からお参りし熱心に聴聞されていきました。私も朝にお参りしました。(朝六時には開いているよと言われたので)

十二月には沖繩別院に行ったのですが綺麗な別院で「土曜礼拝」があり、大阪とは(定例会)違う呼び方なので少し戸惑いました。全国の門徒(同朋)の方もお寺にお参りされているので今年から天満別院にお参りし、良いご縁を結んでください。

婦人部一同お待ちしています。

とありますが、平等心とはどんな

人を見ても何の偏見もなく等しく見て取れる心をいいます。私たちはどうしてもいろいろな偏見をもつて人を見てしまうのではないのでしょうか。あの人は意地悪な人だ、冷たい人だ、あるいは、親切な人だ、温かい人だ、などという具合にです。このように見えるのは、「我」という色眼鏡をかけて見ているからです。それに対して阿弥陀さまは、大悲の眼で私たち人間を見てくださいます。どのような人を見ても、私が救わねばこの者は救われなれないと思っでくださるのです。まさに分け隔てのない平等のお心です。阿弥陀さまの大悲のお心こそが一子地です。

親にとつて子どもは何にも代えがたい存在です。何人子どもがい